



カレブ通信

2013 年 3 月 28 日

第 20 号

内容

1 各地カレブの会の予定

2 ミニ報告

「ガン闘病記」

江波戸啓悟

3 カレブ ストーリー 1

「ミドルエイジの課題に出会って」 山田貫司

4 カレブ ストーリー 2

「聖書と共に、私らしさを求めて」 佐藤文紀



「カレブ ストーリーとは」

「今や私は、きょうでもう 85 歳になります。・・・

モーセが私を遣わした日のように、今も壮健です」

(ヨシュア記 14 章) と、信仰によって主の御心を成し遂げたいと願うカレブの熱い思いが「カレブの会」のスピリットです。

「カレブ通信」には、現代のカレブとして歩む人々のさまざまな日常の物語りが綴られています。

1 各地カレブの会の予定

●東京カレブの会 4月9日(金) OCC 402

お話し：内田雄一様

お話しのタイトル：「カンボジア少女 13 歳」

5月の予定は22日(金) 本田英一様

●宇都宮 カレブの会 4月6日(土)

お話しの内容「いのちのセミナーから学んだこと」 江波戸啓悟様

●仙台カレブの会 4月27日(土)

2 メンバーのミニ報告

ガン闘病記

江波戸啓悟

病気知らずの私がガンとはねえ。町の検診でね。私も七十代となりますと毎年、要精密検査が届くのです。昨年、獨協医大で、あなたの場合、前立腺ガンが約二十パーセントの割合で見つかると言われ、生検の結果、二十一本中、三本にガンが認められる・・・と医師から告げられました。

よくガンの告知をされると一瞬、頭の中が真っ白になる・・・とか言うでしょう。私の場合「さもありなん」との思いが、なんとなくありました。それは私、ホスピス病棟のボランティアをやっていたから。末期患者さんは葛藤する方も多かったです。運命に対する怒りの段階ですと、こちらにも及びます。苦悩する患者さんに「私も同じお仲間ですよ」と言える同病者となれたわけです。確かにガンにも意味がある、人生ムダな事の一つもない、との思いが致します。

その後の検査で胃ガンも見つかり、結局、胃の三分の二切除手術を受けました。一年経過した今では、食欲も旺盛で、順調に回復しているようです。私は万事、楽観主義者で、あまり深刻に考える性格ではありません。これは、独り子給うほど私をも愛してくださる主への信仰が根底にあるからでしょう。

がん患者となって以来、関連情報には敏感となりました。意外にもアメリカなど先進国ではガンは減少傾向です。唯一、日本は二人に一人はガンとなる国民病として増加中です。アメリカのマクガバンレポートによれば、ガンを食源病と特定し、高カロリー、高蛋白の食事を改め、「一日五皿以上の野菜果物を取ろう」の国民運動が稔りつつあるようです。

私もガンになったからには、日本のガン増加の歯止めとなるよう国民栄養の改善に取り組むべく、新たなビジョンが与えられました。これをライフワークとして、残された時を活かしたいと願っております。(宇都宮在住)

3 カレブ ストーリー（１）



山田貫司ご夫妻

1979 年に大学卒業後、外資系ハイテク企業に就職、主に経理人事などの管理部門を経験され、1990 年米国勤務時に、現地の教会に通い、洗礼を受けられました。2010 年に退職され、現在は、パートタイムでコンサルタントをされています。



「退職した」とは、フルタイムの仕事はもうやらない事。そして「奉仕者」と「働き手」の意味の違いに気づき、教会で使われてしまわないこと。マルチに頑張らないこと、そして学び続け、神様の祝福に感謝して、「楽しい」と思える「働き」をする事と気が付きました。具体的に何が与られるのか祈りながらの生活をしております。

山田貫司さまへの

お問い合わせメール：

yamakan.19530714@gmail.com

ミドルエイジの課題に出会って

山田貫司

私よりも先輩が多いので、3 年前に定年前で退職した私のお話が参考になるというよりも、皆さんにお話しを聞いて頂いてアドヴァイスを頂ければと思います。

1. 定年前の退職に至る経過と退職直後

34 年間外資系のハイテク企業に勤務しておりましたが、グローバル化、大規模化を源泉とする競争業界に参入して、自分の価値観、変化への対応性の劣化など考えて、これ以上自分の価値観と相反して勤務し、心身と霊的に疲労困憊する前に退職する決心をしました。その中で与えられたみ言葉は「自分の体を神に喜ばれる聖なるいけにえとしてささげなさい。これこそ、あなたがたのなすべき（霊的な）礼拝です。」（ローマ 12：1）と言うものでした。会社の方向は理解でき方針も間違っていないと思うが、自身の価値が合っているのか。寿命は神様が決めているが（創世記 6：3）、疲れ切ってしまったのは仕方ないと考えました。

(ア) 決断：退職日からすぐに家内と海外旅行した際に入国申告書に「無職」と書いたときの不思議な感覚は忘れられないですが、とにかく現役時代は仕事も、教会の奉仕も教会以外での奉仕も一生懸命やりすぎて、遊び下手でした。退職後もスピードが緩まなく、なんでも焦って急いで取り組む姿勢は変わらず、家内から家事を手伝うと効率ばかり追い求めて嫌われましたが、心身・霊的には定期的運動と十分な睡眠で健康回復しました。

(イ) 不安：時折、経済的に不安になったりしたとき、偶然後輩からアドヴァイスを求められ、詩編 23 編が与えられました。自分の不信仰を見直しました。とにかく休むとの思いで、気分転換で始めた事は、家のリフォーム：子供たちの独立、ベースギター（オヤジバンド@礼拝）、ゴルフ教室、庭の手入れなどでした。

(ウ) 突然、看取りと介護の世界へ（気が付けば）：

神様のご計画は「卒業」旅行直後の義父母の老人ホーム入りから始まり、義母の 2 度の入退院、6 か月後には京都の叔父が倒れ余命幾ばくもないと深刻、東京と京都の 5 人の年老いた親族と二人での対応でした。焦燥していたとき、会社のクリスチャンの先輩から、老後を観られるのは神様の祝福だとアドヴァイスされ、再び強く歩む事ができました。

(エ) 「ミドルエイジ」の定義と実態：

昨今の長寿化により、ミドルエイジは 30 代から 60 歳代までに広げて対応を考える必要があると定義されています。まさに退職してから私たちにこの問題がでたのです。その中では喪失感、サンドイッチ世代そして心身/霊的な問題があるのです。

2. 二件の看取りを通して教えられた事

京都の叔父は医師で自分の死を見つめ、キリスト教の話もして最期の日々を看取りましたが、彼を導く事はできず、寂しい見送りになりました。その直後の義父の看取りは牧師でしたので、葬儀の準備の指示から始まり、余計な延命治療をやめ投薬も辞めてとても良い看取りができ、告別礼拝も喜びに満ちたもので感謝でした。こうして牧会カウンセリングをしたいと考え、クリスチャンの先生について学びました。「退職した」とは、フルタイムの仕事はもうやらない事。そして「奉仕者」と「働き手」の意味の違いに気づき、教会で使われてしまわないこと。マルチに頑張らないこと、そして学び続け、神様の祝福に感謝して、「楽しい」と思える「働き」をする事と気が付きました。具体的に何が与られるのか祈りながらの生活をしております。感謝して。

4 カレブ ストーリー (2)

聖書と共に、私らしさを求めて 佐藤文紀

私が聖書と出会い、聖書と共に送った人生を振り返りますと、波乱万丈の人生かと思われます。(笑い) さらに、今年の3月で会社を57歳で退職いたします。何故、退職するのかと申しますと、少なからず聖書との出会いがあります。

私が聖書と出会った事を振り返ると、聖書を読み始めの2年間は、複雑な歴史書の意味合いが強かった様な気がします。それからの数年間、特に聖書に書かれている人々は神の子であり「兄弟」・「愛」・「神様が人々の中に残された種」等の話が本当なのか、人は聖書に書かれている様に神の子として、神様が創った共通の神様の心の種を持っているのか・・・尽く、試したしだいです(聖書の中には試すなかれと書いてあるので 懺悔ですね) 私は、聖書を知らない人との出会いがほとんどでした。それに、仕事柄ほとんどが経営者との会話です。今考えると突然来た営業マンが、仕事の話を半分・仕事以外の話を半分。そこで話した事に一緒に笑ったり、涙を流したり、さぞかしビックリしただろうと思っております。

そこで学んだ事は、実は、人の中には人生の道(この世中心の飾りの道と神様の道)があり、特に、この世の考え方を強く持っている経営者は、とても孤独であり、聖書に書いてある、愛・勇気・許し・助け合い等の話をすると、どうも、話す人には新鮮に聞こえるらしく(笑い)今まではなかった様な変な信頼感が生まれる様です(笑い) このため、私の仕事も大きく変化し・・・お客さんが別なお客さんを紹介してくれる楽な仕事スタイルになりました(笑い)特に、様々な物事をこの世の道で解決しようと思えば、様々な障害か立ちはだかりますね。創世記に書かれている「言葉があった」強烈な言葉ですね。この世での解決策だけを考えて(お金・世の壁等)闇の世界に閉じ込められるケースが多々あります。それに、神様の聖書に書かれている物事を見る目。この世を見る目とは、この世の負の部分に反応する目ではなく、この世の中に神様が置いて下さった賜物を見つけ出す目が大切な事だと思います。

何故なら、物事の解決策の全てが人々の神様が置かれた心の種の部分にあります。そこに光が当たる事こそが、人々を救える方法であると思います。悩みを持っている人の心が、この世の怒り・怨恨・高慢を持ち、その人が心にある神様の種を見えづらくしているのかと思います。悩みを持った人が神様の種に出会った時は、みるみる負からの脱却になり、我身の様に嬉しく思えます。それに、何よりも聖書の言葉には義があり、人が悩みに合った時に人の心に届く愛があります。そして、聖書を読んだことのない人々の中にも、素晴らしい心を持った人が沢山いる事である。この様な人(私より心がずっと綺麗な人)とで会う事は、私が私自身の隠れている神様の種と出会える最大の喜びでもあります。

何故、早く会社を辞めるかと申しますと、この世の世界と神様の世界を分けて考えていたものが同じものに見えて来た事。どうも、聖書を読んでいると私の心の中に、「そろそろ帰っておいでよ。故郷に」と呼んでいる声が・・・今までの人生で置き忘れて来たものがある様な感じがします・・・そこには、私らしく生きればとの招きがあり・・・これからの人生は、ただただ、神様が与えて下さった人生に身を置く所存です。そして、皆様に神様の祝福と愛が与えられます様にお祈り致します。



佐藤文紀ご夫妻

初めまして。仙台の佐藤 文紀(ふみのり)です。聖書を読み続けて25年になります。みんなは、私の事を文(ブン)呼びます。今では、ブンと呼ぶ方々の方が多いです。
(仙台カレブの会のメンバー)

悩みを持っている人の心が、この世の怒り・怨恨・高慢を持ち、その人が心にある神様の種を見えづらくしているのかと思います。

悩みを持った人が神様の種に出会った時は、みるみる負からの脱却になり、我身の様に嬉しく思えます。それに、何よりも聖書の言葉には義があり、人が悩みに合った時に人の心に届く愛があります。

佐藤文紀さまへのお問い合わせ先メール

sato115-ana@h.vodafone.ne.jp

仙台市在住

